

## 研究内容の説明文

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 献血者説明用課題名※<br>(括弧内は公募申請課題名) | 抗がん剤の副作用の性差に関連する血液検体解析から得られる<br>因子の検討<br>(性差に基づく至適薬物療法の検討) |
| 研究期間                        | 平成 28 年 12 月 ～ 平成 37 年 11 月                                |
| 研究機関名                       | 国立がん研究センター中央病院   |
| 研究責任者職氏名                    | 岩佐 悟   |

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

### 研究の説明

#### 1 研究の目的・意義

現在、がんの治療として用いられている抗がん剤は、一定の頻度で副作用を伴います。抗がん剤の副作用は、同じ抗がん剤であっても、患者さんごとに差があります。また、抗がん剤によっては、性差（男女間）で副作用のあらわれ方が異なるという報告もされています。しかしその要因について多くは、現在のところ詳しくは分かっていません。実際に抗がん剤治療を受けた患者さんの血液から解析したデータと、一般の方（献血いただいた方）の血液から解析したデータを比較することが重要と考えています。

この研究では、抗がん剤治療が、副作用のあらわれ方に男女で違いをおこしている血液中の因子を見つけ出すことを目的としています。

#### 2 方法《献血血液の使用も含む》

献血いただいた血液の一部は、日本赤十字社で長期保管されています。平成 17 年度に保管された血液と検査用検体の残余血液から、性別ごとに計 80 名分の血清・血漿検体を選択します。これらの血清・血漿検体を用いて、タンパク質や代謝物（化合物）を調べます。得られたデータで性別での違いのあるたんぱく質や代謝物を同定します。また、献血血液から得られたデータと、患者さんの血液から得られたデータを比較し、健常者と患者さんとの違いがないかも検討いたします。

#### 3 予測される研究の成果等

抗がん剤の用量（患者さんに使用する薬の投与量）については、現在、身長・体重等に基づいて決まった用量ですが、抗がん剤の特有の副作用（特に、男女間での副作用）のあらわれ方に違いをもたらす要因が明らかとなれば、男女間で用量を適切に調整することで、副作用を軽減・回避できることが期待できます。

|      |         |
|------|---------|
| 受付番号 | 28J1069 |
|------|---------|

本研究に関する問い合わせ先

|      |                      |
|------|----------------------|
| 所属   | 国立がん研究センター中央病院 消化管内科 |
| 担当者  | 岩佐 悟                 |
| 電話   | 03-3542-2511         |
| Mail | siwasa@ncc.go.jp     |